令和5年9月30日

丸亀市民会館開館準備事業
「演劇で知る、認知症の人とのコミュニケーション」ワークショップ
開催業務委託

報告書

認知症介護の背景、課題

【背景】

・高齢者の5人に1人が認知症と考えられている

・認知症の方に対する正しい理解が普及していない

・介護者が介護疲れになる、人と疎遠になる、介護うつとなってしまう

【課題】

・認知症の方とのコミュニケーションが不足している

・介護を行うことで精神的にストレスを抱えている

・認知症の方に対する知識が不足している

・介護による孤独

ワークショップ内容

概要：　認知症の方との身近な人等に向けて、演劇体験を通じて
　　認知症の方とコミュニケーションを考えるワークショップ

日時　：令和5年9月5日（火）、9月8日（金）

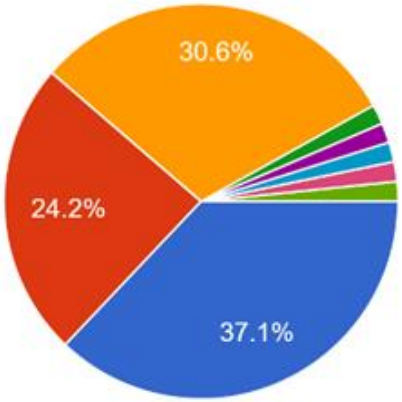
講師　：菅原直樹（劇団OiBokkeShi主宰）

場所　：9月5日　ひまわりセンター4階研修会議室
　　9月8日　綾歌市民総合センター1階研修室

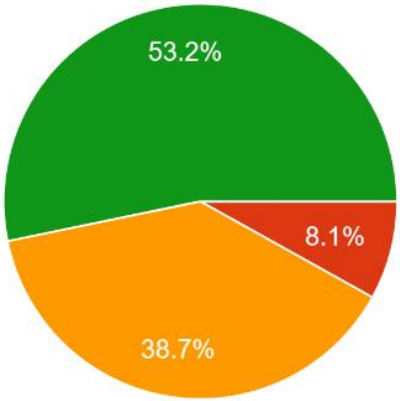
参加者：民生委員

(62名)　認知症に関わるお仕事をしている方（ボランティア含む）
　　その他　一般公募にて申し込みがあった方

アンケート結果（回答数62名）



- 民生委員（23）
- 認知症に関わるお仕事をしている（ボランティアを含む）（15）
- 記入無し（19）
- 在宅医療介護連携支援センター相談員（1）
- 行政職員（1）
- 介護家族（1）
- 地域包括支援センター（1）
- 包括職員（1）

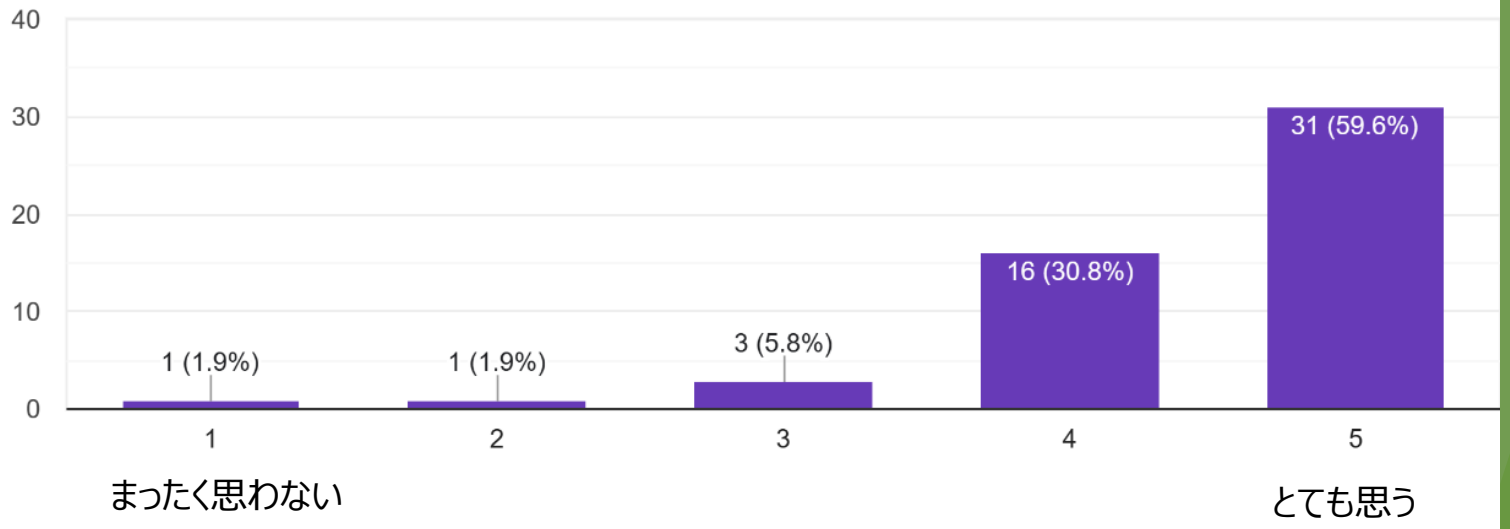


- 20歳未満（5）
- 20歳～39歳（24）
- 40歳～64歳（0）
- 65歳以上（33）

（ｎ数）

認知症の方を疑似体験することで新しい気づきがあった

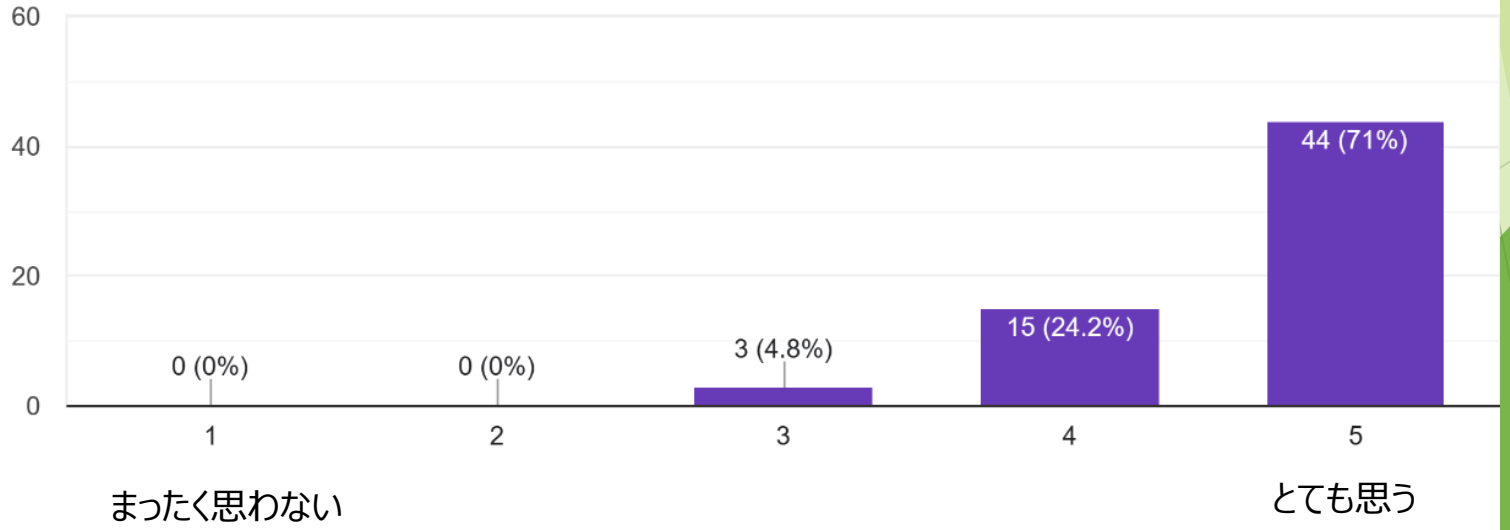
Q1



（52）

認知症に対する理解が深まった

Q2

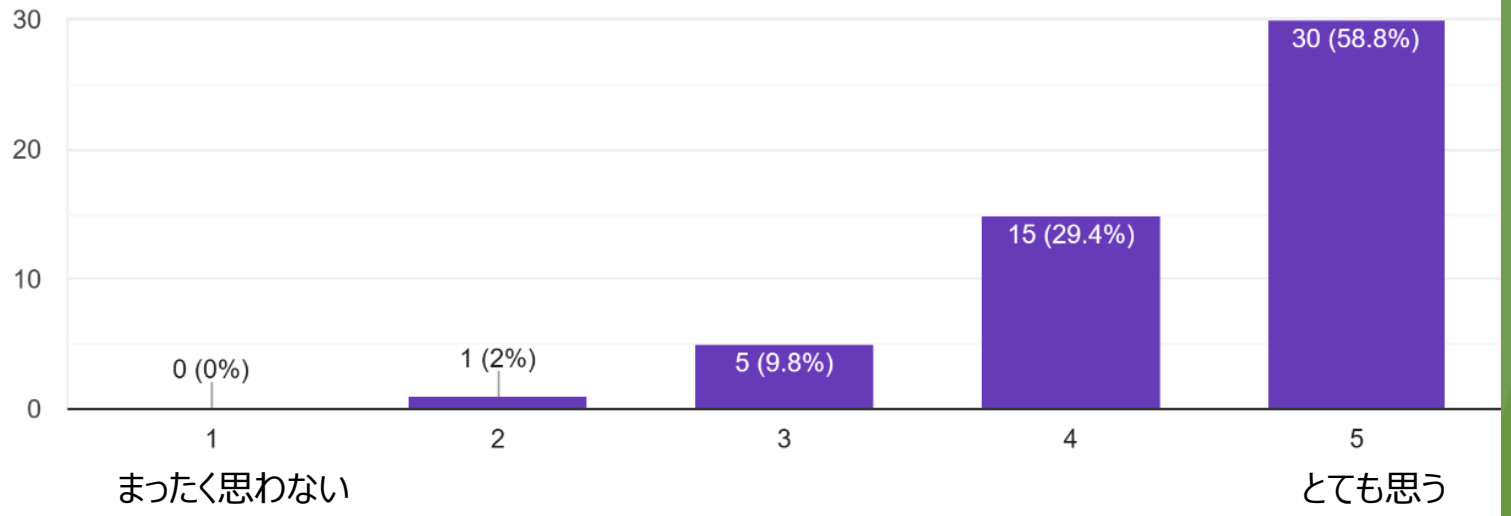


（62）

（n数）

以前よりも、認知症の方の気持ちがわかるようになったと感じる

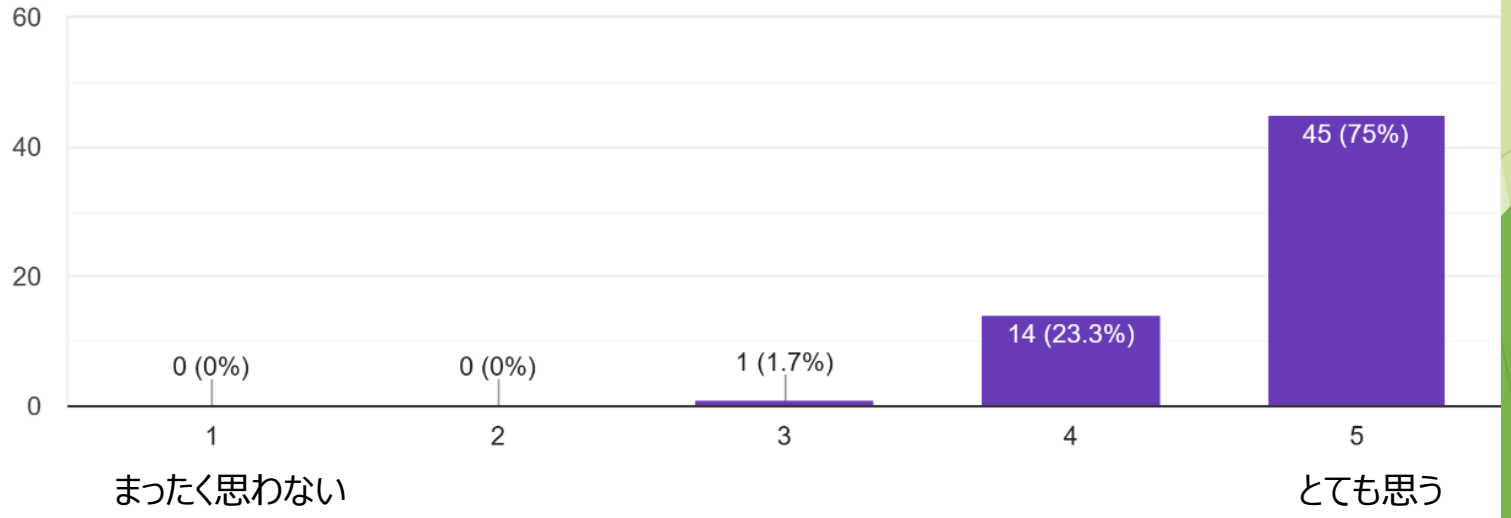
Q3



（51）

認知症の方とのコミュニケーション方法について学べた

Q4

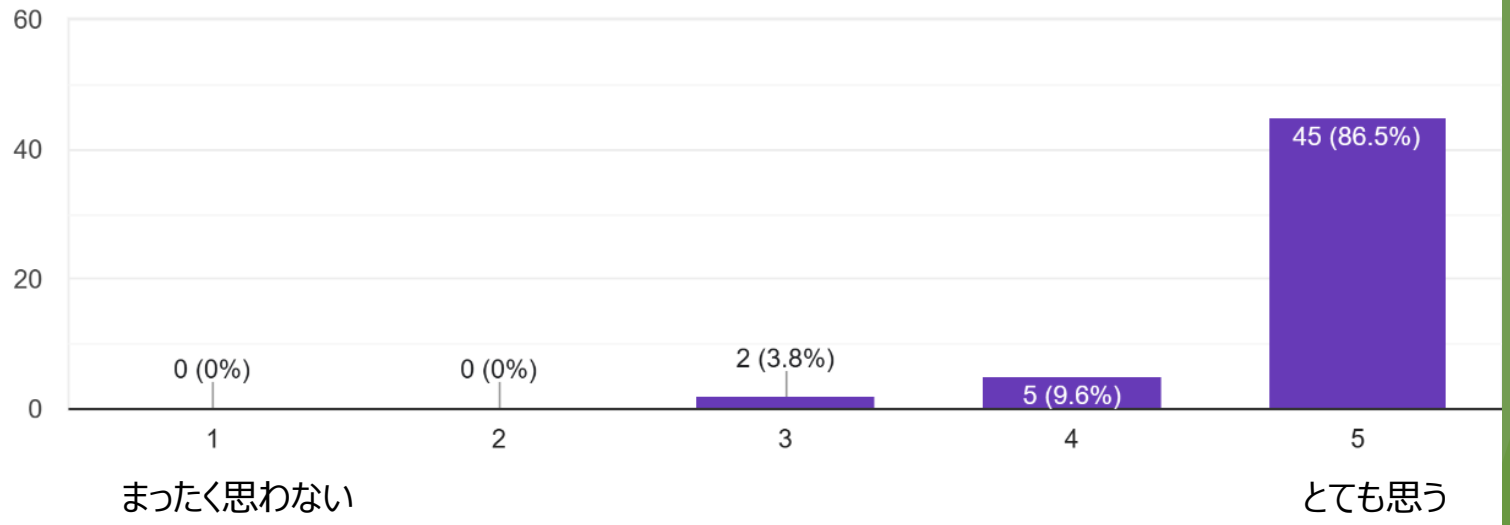


（60）

（ｎ数）

認知症の方が地域や社会であたりまえに暮らせる社会にしていく必要があると感じる

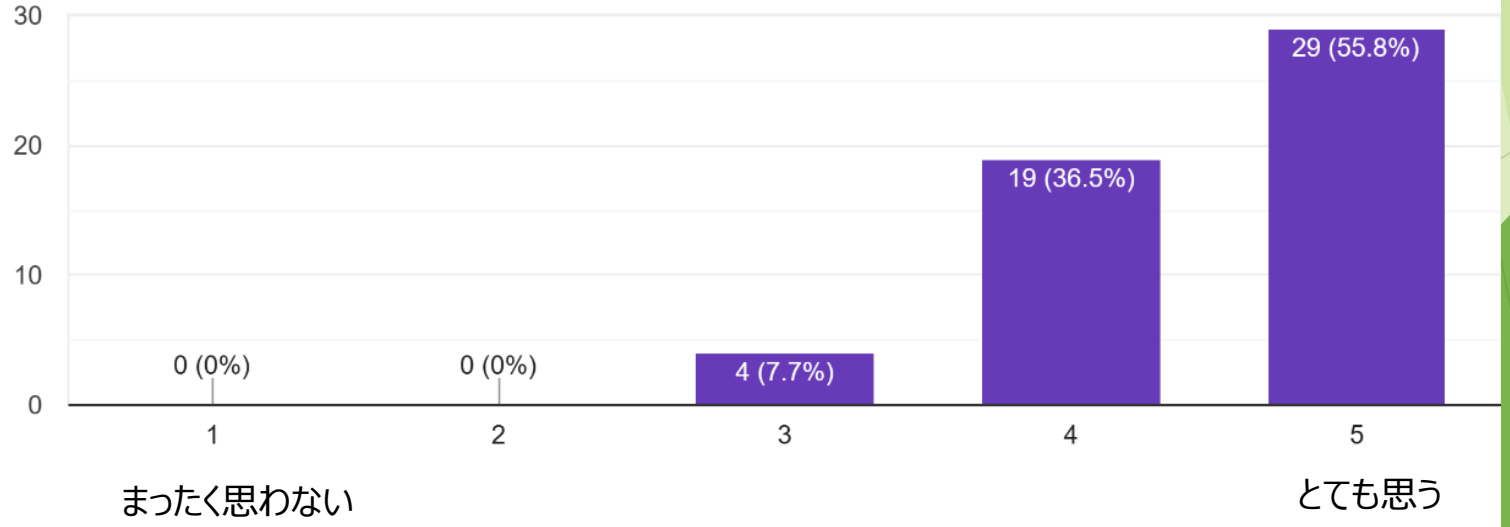
Q5



（52）

演劇を身近に感じることができた

Q6

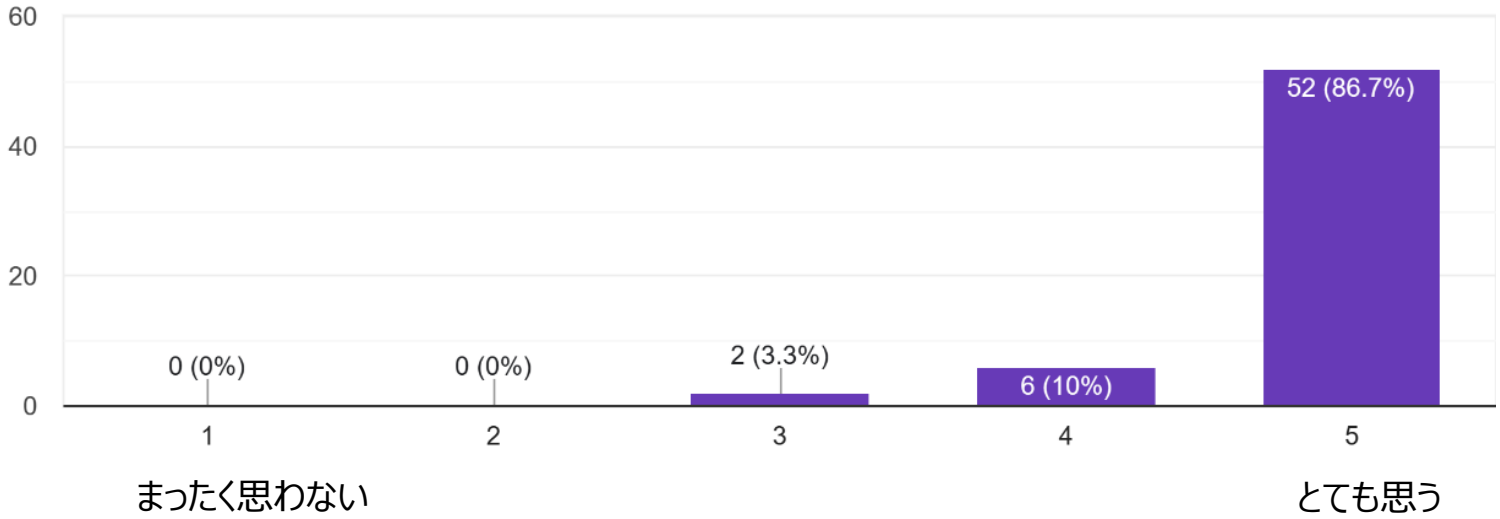


（52）

（n数）

Q7

今回のワークショップは楽しかったですか



（60）

（ｎ数）

自由記述

- 演劇が身近に感じることができ、とても楽しかったです。
- 目の前の問題ばかり目を向けがちですが、今を楽しく生きることに頑張りたいと思いました。
- 心にゆとりを持って接します。
- 認知症と演劇を掛け合わせるという発想が今までなかったので、こういった取り組みは非常におもしろいと思いました。 認知症への理解やアプローチについて、多分野からできることがあるという可能性を感じました。
- 全く初めての経験で、演劇という切り口でとらえることが新鮮であった。
- 心の中で「カチン」と鳴らして、演技ができればと思います。その向こうには優しさ、思いやりがあると思います。
- 認知症の方に対して、女優・俳優になれという言葉、まさに認知症の人に対する関わりが深くなると思いました。
- 認知症の義父を介護する義母の苦労が理解できました。
- 冷ややかに見ることが多かったのですが、温かい目で見た方が両者にとって楽なのだと感じました。

ワークショップ写真

DAY1
ひまわりセンター研修会議室

『将軍ゲーム』の様子

DAY1
ひまわりセンター研修会議室

『イエスアンドゲーム』の様子

DAY2
綾歌市民センター

WS前
オープニング
の様子

『将軍ゲーム』
の様子

DAY2
綾歌市民センター

『将軍ゲーム』の様子

『イエスアンドゲーム』の様子

所感

- 本ワークショップは、介護者と被介護者の両方を演じることで自分事に置き換えることができる。そうすることで、双方の内面的な世界を感じることができ、被介護者の行動や言動の原理に気付くきっかけとなる。また、それを客観的に見ることで、コミュニケーションの取り方を見つめなおすことにもなる。
- 参加された方は、演劇というフレーズから人前に出て、何か演じさせれると不安や緊張があったかもしれないが、人は普段の生活で、親（父、母）や職業（警察官とか）というように何かを演じており、演劇は日常生活で行われていると聞くと打ち解けたように見えた。そこからは役になりきって、大きな声で笑ったり、身体で仕草を表現したり等、演劇を身近に感じていただき、楽しく過ごせていただいたと考える。
- 一方、実際の介護になると「応用できるのか」「身内に対しては難しい態度」という声があり、心配と思われることがあると思うが、ワークショップでの経験を認知症の方への理解・気遣いやコミュニケーションの取り方を考えるキッカケとしていただき、今を楽しみながら実践していただけたらと思う。